



コンテ

2008.10



環境を守らないと赤字になる?

地球温暖化が大きな関心事になっています。日本は京都議定書で宣言した、温室効果ガスを1990年に比べて2008年から2012年平均で6%削減することに取り組んでいるところですが、削減どころか増加しているのが現状です。

そんな中、東京都は本年6月25日に環境確保条例が可決しました。そこでは2012年までに温室効果ガスを2000

年比25%削減することについての具体策を決定しました。

条例によると大規模事業所(燃料、熱、電気使用量が原油換算1500k1以上の事業所)では、排出されるCO2の総量の削減義務が課されます。これは過去3年間のCO2平均排出量に削減義務率をかけることで決まります。

削減義務を果たす手段は次の2つです。

- 1) 自ら削減活動を行うことでCO2を削減する

- 2) 他社が削減義務量を超えて削減したCO2削減量を取得(購入)する(排出量取引)

この条例には罰則があり、削減量未達成の場合、罰金、違反事実の公表、そして不足量に関わる費用が都から請求されます。

企業にとっては厳しい内容です。そしてこの処置は、将来的に関西、中部の大都市圏や中小規模の企業にも適用されるかもしれません。

まさに環境を守ることは、企業の義務です。そして、黒字体質の企業を作るためには継続してCO2を削減する仕組みが必要となり、これはトップ自ら率先して行わなければなりません。環境を守って黒字企業を作りましょう。

降旗 達生



ISO9001:2008の動向 第1回



ISO9001:2008の改訂(追補)は「何も足さない、何も引かない(サントリー:山崎)」を原則として行ってきましたが、要求事項そのものが変わる部分も数か所あります。従来からのQM(品質マニュアル)のままで良いのでしょうか? 解答は

先月、ISO9001:2008のFDIS(Final Draft International Standard)の最終投票が終わり、IS(International Standard:国際規格)が

発行され、わが国では、2008.12.20にJIS化される運びとなりました。これを受け、JABでは2009.1.1~2009.12.31の1年間で2008年版に

移行することを要求してくるようです。今後3回シリーズでISO9001:2008の要点を解説します。

- NO!です。大きく変わる部分は各規格要求事項の末端につけられている「参考」の表現が変わるのですが、特にISO9001:1994からの影響を引きずってISO9001:2000に移行した企業には大きな転換点を迎えることとなりそうです。具体的に言うと、
② アウトソースの位置づけ
③ 教育訓練の効果

- ① 工程内検査の位置づけが大きく変わる企業が多くなる
④ 顧客満足も8.4のデータの分析も1994レベルから考えると相当変わってきているし、かつ、簡便なシステムで良いことを2008年版では要求されるようになります。
今回の改訂(追補)を読んで感じた

ことですが、これまで多くの二次文書(規定・標準類)などを多く作成している企業は、今回の変更に伴って、マニュアルを一本化するよいチャンスです。現行のシステムを大幅にスリム化するチャンスでもあると私は考えています。

品質・環境主任審査委員 山口 工

危機感のない日本人

第2回: 人類文明はあと何年

名古屋大学環境学研究所 研究員 山口 工

ワールドウォッチ研究所やアースポリシー研究所(このデータは環境白書にも使われている正式データ)の発表によると、地球上には現在6,600万種の高等生物(土壌分解生物を除く)が確認されており、このままの絶滅の速度で進行すると、約130年後には「地球上に生物はいなくなる」ことを物語っています。

地球上の最後の生物が何になるのかは不明ですが、その最後が人間だとは思えません。そう考えると、人類に残された時間は「あと100年程度(西暦2100頃)」と見積もるのが妥当だと思います。(100年後というと、現在、私の娘が15歳なので、彼女が10年後に結婚し、子供をもうけるのが2023~2025年でしょう。彼女の生んだ子供(私の孫)が75歳まで生きると仮定すると、私の孫が地球の終焉を見ていくこととなります。私は、その頃にはとっくに死んでおり、多分、死ぬまで面白おかしく人生を謳歌していくことができるでしょう。

やりたい放題やり、いらぬものはどんどん捨てる。...これも一つの選択肢であり、私は否定しません。でも...私は子供を作ってしまったし、彼らには未来永劫幸せに暮らしてもらいたい。(自分の孫が無条件に可愛いという生物の根源に基づいた理論です。)
こんな絵空事をいう山口は詐欺師と思っていたとしても結構ですが、政府の中央では既に巨大なプロジェクトが動きつつあります。私は現在、政府からの膨大な研究費をいただき、明るい未来(持続可能な社会の構築: Sustainable Development=人間が生き続けられる

未来)を名古屋大学で研究しています。先月の洞爺湖サミットでは、2050年までに温室効果ガスを1990年比50%削減という共同声明に至りましたが、これは、スパゲッティ症候群の「延命」とするか? それとも「復活」とするか? の分岐点を迫るものです。私の意見は「このまま人類を滅ぼしてはならない」ということです。この続きは次回で...

ISO9001・14001 内部監査員コースの講師もしております。



福祉住環境コーディネーター

福祉住環境コーディネーターとは、高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案するアドバイザーです。医療・福祉・建築について体系的で幅広い知識を身につけ、各種の専門職と連携をとりながらクライアントに適切な住宅改修プランを提示します。また福祉用具や諸施策情報などについてもアドバイスします。

受験料	3級 4,200円 1級 10,500円	2級 6,300円 (消費税含)	合格率 (第19回)	3級 41.7% 1級 5.9%	2級 23.9%
試験日	第21回: 11月23日(月)		申込日	9月9日(火) 10:00 ~ 10月10日(金) 18:00	
受験資格	学歴・年齢・性別・国籍による制限はなし。 2級からの受験や、3・2級を同日に受験することも可能。 ※ただし、1級は申込登録の時点で2級に合格されていることが条件。(2級証書番号が必要)		各級の基準	3級: 福祉と住環境の関連分野の基礎的な知識についての理解度を確認。 2級: 3級レベルの知識に加え、福祉と住環境等の知識を実務に活かすために、幅広く確実な知識が必要。また、各専門職と連携して具体的な解決策提案できる能力を要求。 1級: 3級・2級で得た知識をもとに、新築や住宅改修の具体的なプランニングができ、さらに安全で快適なまちづくりへの参画など、幅広い活動ができる能力が必要。	